

この人に会いました

湯沢の自然を紹介する里山ガイドに忙しい、自然観察指導員、森林インストラクターの高橋正明さん（湯沢町諏訪）にお話を伺いました。



里山ガイドの
高橋正明さん
(湯沢町諏訪)

いがきつかけです。

高橋さんの里山ガイドの内容はどんなものですか。

湯沢の自然を紹介する里山ガイドに忙しい、自然観察指導員、森林インストラクターの高橋正明さん（湯沢町諏訪）にお話を伺いました。

山野草の写真が趣味だった高橋さんが「南魚沼自然塾」を立ち上げ、自然観察の技術や知識を学びながら、里山ガイドを始められたきっかけは何ですか。

湯沢の自然の多様性を自分自身が勉強したかったことと、その魅力をより多くの人に伝え、次の世代へ大切に引き継ぎたいという思

然を教えるのが私たちの義務であることを痛感させられました。

湯沢の自然で今後心配されることは何かありますか。

単に植物などの名前を教えるのではなく、ゆっくり歩きながら自然の営みを体感してもらい、森の大切さや役割、人間の生活等とのかわりについて話しています。このことを観光客の人も求めていることを実感しています。

湯沢の子供達の自然観察会での子供達を山に連れて行くとき、自然に触れてもらい、おいをかいたり触ったりすることで、五感で自然を体験してもらおうと、目を輝かせ鋭い質問が出てきます。本当に子供達の反応はすごく、花や虫に興味を示します。湯沢の将来を担う子供達に、湯沢の本当の自

里山ガイドの湯沢観光への位置づけはどのように考えていますか。

子供達を山に連れて行くとき、自然に触れてもらい、おいをかいたり触ったりすることで、五感で自然を体験してもらおうと、目を輝かせ鋭い質問が出てきます。本当に子供達の反応はすごく、花や虫に興味を示します。湯沢の将来を担う子供達に、湯沢の本当の自

開発による自然破壊と里山が放置され変わってしまったことです。昨年、なら枯れ病の発生がありました。里山の木が人の手により更新されなくなり、古い木が多くなることが原因のようです。開発による破壊より、放置のほうが心配です、手をつけられないことが自然を守るにはなりません。

インタビューを終えて

杜の都「仙台」で生まれ育った高橋さんが、湯沢生活27年、写真を通して見えた湯沢の自然を、五感で楽しむ方法で観光客や湯沢の人に伝えたいという強い思いが伝わってくるお話を伺いました。一人でやることは限界があるので一緒に仲間で作れる人、興味のある人は集まって欲しいという熱いメッセージをいただきました。

広報常任委員会

委員長 南雲 正

南雲 和夫



「絆（きずな）」

岩手宮城内陸地震で被災された皆さまに、心よりお見舞いを申し上げます。一日も早い復興を願っています。

入道雲の暑い夏がやってくる。昔、小学生の頃、魚野川でよく遊んだ。泳ぐ場所も前河原とか立岩とか万年橋とか、町内で決まっていた。夏休み前になると上級生が石を積み上げ、川を深くして泳ぎやすくした。川に投げられ、おぼれながら泳ぎを覚えた。岩の山のくさみも採った。石でつぶして手を真黄色にして食べた。

湯沢でもふるさと納税への取り組みが始まった。災害地や、破綻市町村への納税を別にすれば、県より市町村への納税が多いと言ふ。生まれ育ったふるさとへの郷愁は強い。湯沢の子供たちには豊かな自然の中で、思い出をたくさん作って、大きく育ってほしい。

広報委員 田村正幸

編集

湯沢町議会

広報常任委員会